

氏名	清野 正普
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6107 号
学位授与の日付	令和 2 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Clinical outcomes of treatment with locking compression plates for distal femoral fractures in a retrospective cohort (大腿骨遠位端骨折に対する LCP を用いた治療の検討)
論文審査委員	教授 木股敬裕 教授 難波祐三郎 准教授 内藤宏道

学位論文内容の要旨

大腿骨遠位端骨折に対して架橋プレートとして LCP (Locking compression plate) を使用した場合に、骨癒合に関連する因子を調査した。症例は 70 例 71 骨折、男性 23 人、女性 47 人、偽関節例は 7 人であった。そのうち単純骨折は 26 人で、偽関節例は 2 人、粉碎骨折は 45 人で、偽関節例は 5 人であった。それぞれの群における、骨癒合率、骨折部をまたぐスクリュー間の距離、プレート長/骨折線の比、骨折部に近い empty hole 数、内側骨片間距離、喫煙歴を検討した。結果は、骨折部をまたぐスクリュー間の距離、プレート長/骨折線の比、骨折部に近い empty hole 数は有意差を認めなかった。粉碎骨折において内側骨片間距離が 5mm を超えると、また喫煙歴があると有意に偽関節数が増加した。大腿骨遠位端骨折に対して架橋プレートとして LCP を使用する場合、内側骨片間距離をできるだけ短くすることや、骨折部を短縮させて整復することが重要であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

大腿骨遠位端骨折治療後の偽関節は、未だに大きな課題である。今回、その因子に関する研究を行った。対象は、LCP (Locking compression plate) を用いて治療した単純骨折 26 と粉碎骨折 45 で、それぞれの骨癒合率、empty hole 数、内側骨片間距離、喫煙歴などを検討した。

その結果、empty hole 数には有意差を認めなかったが、粉碎骨折において内側骨片間距離が 5mm 以上、喫煙歴ありが、有意に術後の偽関節の発症と関連していることが判明した。

本結果は、今後大腿骨遠位端骨折の治療において、内側骨片間距離をできる限り短くすることや、骨折部を短縮して整復することの重要性を示唆したことになる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。